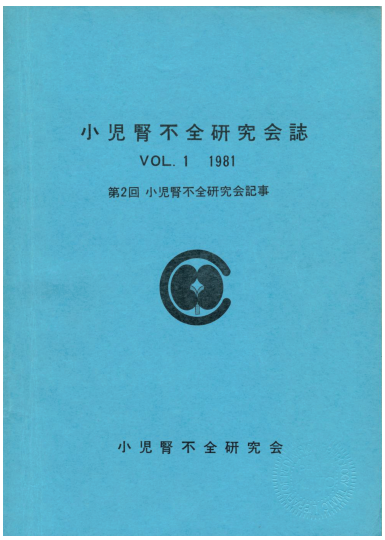
日本小児腎不全学会雑誌への想いと期待

日本小児腎不全学会雑誌は，本巻（35 巻）より編集方針を大きく変更しました。2014 年 5 月に日本専門医機構が設立され，新しい専門医制度が始まろうとしています。新しい専門医制度では，「査読制度のある雑誌に小児科関連論文を 1 編以上掲載」が小児科専門医の申請・更新要件となります。そのため，この新しい制度に対応すべく，今までの二次抄録（査読なし）から論文投稿（査読あり）へ編集方針を変更しました（2014 年 10 月 30 日の評議員会で承認，同年 10 月 31 日の総会で報告）。

ここで本学会の歩みを振り返り，本学会誌が果たしてきた役割を考えてみたいと思います。本学会は，1979 年（昭和 54 年）9 月に大阪で準備委員会として初めて開催され，翌年の 1980 年（昭和 55 年）10 月 25 日（土曜日）に，東京の経団連会館にて第 2 回小児腎不全研究会が開催されました。世話人は，北川照男先生（日本大学医学部駿河台病院小児科教授），鎮目和夫先生（東京女子医科大学内科教授），そして太田和夫先生（東京女子医科大学腎臓病総合医療センター教授）の 3 名の先生方で，事務局長は伊藤克己先生（東京女子医科大学腎臓病総合医療センター）でした。本学会設立の趣旨は，「小児腎不全医療に携わるさまざまな職種の皆さんが一同に集い，胸襟を開いてじっくりと語らい，そして親交・信頼を深めること」だと，故太田和夫先生よりお聞きしております。また，研究会（のちに学会）での発表や質疑応答の内容が小児腎不全研究会誌（のちに日本小児腎不全学会雑誌）として記録されてきたことが，本学会の発展に非常に大きな役割を果たしてきたと思います。記念すべき小児腎不全研究会誌第 1 巻の表紙を示しますが（写真），本学会の事務局長として長年にわたり学会誌の発行に尽力されてきた伊藤克己先生にあらためて敬意を表します。また，本学会誌は，会員の皆さまのご協力と小児腎不全診療にご理解のある企業の方々からのご支援の賜です。



このように，本学会誌には小児腎不全診療に対する「想いと期待」がぎっしりと詰まっています。諸先輩先生方が築きあげてこられた本学会の理念をしっかりと継承し，学会誌をさらに充実させることが事務局長である私の最大の使命だと考えています。今後とも，ご指導・ご鞭撻のほど，どうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成 27 年 7 月吉日

日本小児腎不全学会
事務局長　服部元史